

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

5

〈EKUTEBIAN VOL.16 MAY 1997 EKUTEBIAN〉



まいあーと ■パンフラワー「優しい風のように」 by 裾城公子

ラン科

エビネ

撮影:宮城六郎

キンラン

撮影:宮城六郎

ギンラン

撮影:天野延代

ササバギンラン

撮影:宮城六郎

かつては、新緑の頃の多摩の谷戸のどこにも見られた花であった。それが1か所消えまた1か所といつの間にか乱獲され自生しているエビネを写す機会がなくなってしまった。

キンランも乱獲された花の1つ。やはり多摩の雑木林の中にギンランと共に咲いていたがいまではほとんど見られない。

ササバギンランは、花よりも葉のほうが高く伸びるのが特徴。ところが、去年は幸運なことに2か所でキンランにお目にかかることができた。そのうちの1か所は、次の日になくなっていたという話を教えてくれた人から聞いた。

ササバギンラン (左)
キンラン (右)



エビネ (左)
ギンラン (右)





◆ Tea Time ◆



えくてびあんレポート



◆ 彩 ◆

こころに花をさかせませう

独創的な作風で知られるパンフラワー作家、結城公子さん(栄町3丁目)の新作は、まるでパンフラワーの原点に帰ったかのように「花と果物」がテーマとなった。しかし、本物をどれだけ忠実に再現できているか、という見方はもはやナンセンス。小説や絵画、映画も音楽も、すべて人の手によって「創られたもの」だったはず。天然の美を踏まえ、そこに独自の風を吹き込む結城さんもまた「創る」ひとなのだ。



◆ おしゃべり ◆



◆ メロディー ◆

結城公子◎栄町3丁目在住。
20年前からパンフラワーを始める。'88年、アートサロン四季に於て初の展示会を開催。以降、年に1回のペースで作品展を開く。'90年に「花工房/結城」を主宰。4月17日から29日まで、立川高島屋にて「花と果物のハーモニー」を開催。



◆ 思いのまま ◆



コミュニティ奨励賞表彰式



立川文化の担い手

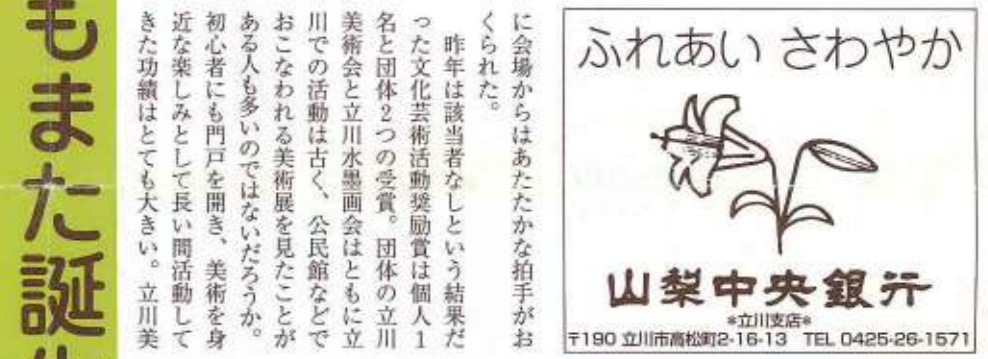
平成8年度コミュニティ奨励賞が20人(組)に

今年もまた誕生

立川市地域文化振興財団が主催しておこなわれているコミュニティ奨励賞の表彰式が、今年で9回目を迎える。毎年、立川の中で地域の活動に尽力された人たちに贈られている奨励賞。文化芸術活動、スポーツ活動、善行活動として地域活動とその内容は、大きく四つに分けられている。今回その栄誉に輝いたのは個人13名と7団体。会場になっているアミューたちかわ(立川市民会館)の小ホールには、立川の「今」を支える人たちが、顔をそろえた。

開会の辞についで平成8年度の表彰経過の報告がおこなわれ、つぎに今回の審査にあたった審査委員の紹介。そして表彰者の発表へと移り、名前を発表された人たちが、表彰状を授けられた。審査委員長は、立川市市民会館の小ホールに、立川市の「今」を支える人たちが、顔をそろえた。

開会の辞についで平成8年度の表彰経過の報告がおこなわれ、つぎに今回の審査にあたった審査委員の紹介。そして表彰者の発表へと移り、名前を発表された人たちが、表彰状を授けられた。審査委員長は、立川市市民会館の小ホールに、立川市の「今」を支える人たちが、顔をそろえた。



ふれあいさわやか 山梨中央銀行

- ### 善行活動奨励賞
- ・加藤 清 67歳 柴崎町 8年間
地元町会内にある公園清掃のボランティアを続けている。
 - ・佐伯 具之 62歳 柴崎町 20年間
立川手話友の会の会員で、初心者指導や障害者を持った人が地域で生活するための援助、特に関心のあるボランティアサービス。又、公的な大会(成人式、福祉大会、講演会など)などの手話通訳をしている。
 - ・戸塚 朝子 85歳 国立市 22年間
古く手再利利用のための整理や施設入所者の話し相手、ホーム喫茶の手伝い。又、立川市社会福祉協議会のバスツアーへ提出するための小物作りなどの活動をしている。
 - ・深町 文子 72歳 高松町 21年間
昭和50年頃から高齢社会を見通し、健康で年を重ねるためには何をすべきかを考え、一人暮らし老人への給食(配食)運動の提案や、現在フェローホームズボランティアグループの代表として施設のお年寄りのためのボランティアコーディネイトを行っている。
 - ・植田 栄治 50歳 錦町
東京都アマチュアダンス協会主催、第24回東京都民スポーツダンス大会1級戦モダンのクラスにおいて約90組の頂点に立つ。
 - ・岡部 良司 51歳 西砂町 24年間
少年野球チーム西砂サンダース監督として、地域の小学生の指導に貢献。
 - ・比留間 正義 48歳 羽衣町 25年間
昭和46年4月より現在に至るまで、羽衣町体育会役員として地域スポーツ振興と、体育会発展に努力している。
 - ・堀田 弘 54歳 一番町 24年間
少年野球チーム松中小ファイターズ監督として、昭和47年から子供たちを指導。
 - ・立川クラブ八丁会(団体) 34年間
立川市在住在勤の選手で構成された軟式野球チーム。市民の模範となるチーム作りと、立川市の野球普及に貢献。
 - ・立川太極会(団体) 27年間
昭和44年以来太極拳を通じ、地域活動を続けて現在は年3回、市の太極拳教室や演習館、榮徳体育館で各週一回づつの教室を持ち、太極拳を市民健康の増進の為に努力している。
- ### 地域活動奨励賞
- ・久保 晋 31歳 一番町 2年間
地域の安全と連携のために、「手づくり新聞」(けいさつこうぼう)を所長として発行と配布(毎回2700部)や児童、生徒の健全育成への助力、地域の生活・環境整備と、配慮と実践などの活動をしている。
 - ・藤本秀三保 74歳 曙町 10年間
昭和60年4月より平成7年3月まで10年間、民謡を通じて地域活動に貢献。
 - ・美波秀千恵 67歳 羽衣町 14年間
14年間に渡り町会の納涼大会で太鼓を打ち続け、昭和44年以来太極拳を通じ、地域活動を続けて現在は年3回、市の太極拳教室や演習館、榮徳体育館で各週一回づつの教室を持ち、太極拳を市民健康の増進の為に努力している。
 - ・立川市立立川第九中学校PTA(団体) 16年間
文化祭での模擬店や行事などを協力し、学校、地域の発展、生徒の健全育成に大きく貢献。又、都PTA連合会研究会で発表及び表彰状受賞。

- ### 文化芸術活動奨励賞
- ・渡辺 宏美 56歳 砂川町
秋田県芸術舞踊協会主催、第15回秋田全国舞踊コンクール最優秀指導者賞を受賞。
 - ・立川市連合水画会(団体) 23年間
数グループからなる同好の市民が真摯に文化活動に励んで交流の輪を固めながら長年、市民文化祭に率先参加をしている。
 - ・立川美術会(団体) 47年間
美術の向上と会員相互の親睦を図りながら、年数回の美術展を開催し、文化と深いのある街づくりに貢献。
- ### スポーツ活動奨励賞
- ・岡部 将史 23歳 富士見町
日本青年団協議会、日本青年館、東京都教育委員会主催、第45回全国青年大会の水泳競技会に都代表選手として参加し、男子50mバタフライ、男子200mメドレーリレーで優勝。
 - ・増田 栄治 50歳 錦町
東京都アマチュアダンス協会主催、第24回東京都民スポーツダンス大会1級戦モダンのクラスにおいて約90組の頂点に立つ。
 - ・岡部 良司 51歳 西砂町 24年間
少年野球チーム西砂サンダース監督として、地域の小学生の指導に貢献。
 - ・比留間 正義 48歳 羽衣町 25年間
昭和46年4月より現在に至るまで、羽衣町体育会役員として地域スポーツ振興と、体育会発展に努力している。
 - ・堀田 弘 54歳 一番町 24年間
少年野球チーム松中小ファイターズ監督として、昭和47年から子供たちを指導。
 - ・立川クラブ八丁会(団体) 34年間
立川市在住在勤の選手で構成された軟式野球チーム。市民の模範となるチーム作りと、立川市の野球普及に貢献。
 - ・立川太極会(団体) 27年間
昭和44年以来太極拳を通じ、地域活動を続けて現在は年3回、市の太極拳教室や演習館、榮徳体育館で各週一回づつの教室を持ち、太極拳を市民健康の増進の為に努力している。

今から十一年前、人生の一つの転機とも言え、定年を迎えました。その時、自分自身に對し幾つかの課題を与えました。

「挑戦する人生」といいますと、少し大げさに聞こえるかもしれませんが、ともすれば不規則で無気力になりがちな定年後の生活に、張りつ活力を持たせようと思ったからです。それはスキー一級に合格することであり、漢字と仮名の習字五段に昇進することでありました。

そして、もう一つに作家でまた登山家でもあった故深田久彌氏の「日本百名山」、その百名山の全山踏破があったのです。

その時既に北は利尻島の利尻岳から、南は屋久島の宮ノ浦岳まで、日本列島の各地に位置する名山四十八座に登っておりました。

そして私が六十八才になった平成五年の八月、百番目の山となった戸隠連峰の最高峰高妻山に向かったのです。

初日は戸隠キャンプ場から大洞沢に沿って登り、一不動の非難小屋に泊まりました。幸いな事に二日とも晴れ、黒龍山の上の空が赤く染まっております。

この山は昔から山伏や修験者が登拝していましたが、石塔に一目目、二合目の代わりには十三の石が刻まれておりました。

一不動から三釈迦、三文殊、四菩薩、五地藏と登り厳しき登りに耐え、六弥勒、七薬師、八観音、九勢至を経て、阿弥陀如来を祀る高妻山の山頂に辿り着きました。そこは緩やかな草原になっており、クルマユリやハクサンチドリなどの高嶺の花が温かく迎えて呉れました。

そこから更に北に進み、大小様々な石が重

えくてびあんエッセイ No.50

我が百番目の山

小安 崇

健康で粘り強く常に挑戦する気概を持って登り続け、成就の喜びと共に、これまで私を支え助けてくれた友人や妻、それに息子たちの協力を深く感謝いたしました。

山頂からの展望は特に素晴らしい、近くには妙高山や火打山が、遠くには雪を頂いた北アルプスの山々が、はつきりと連なって見えました。

その山の一つの山を見てみると、その時の登山の辛かったこと、楽しかった事の数が脳裏に蘇って参りました。

これまで来たのだから、高妻山につつまし非難小屋と思いましたが、考えていたより遥か細々としていました。途中に小さな湿原や、きれいなお花畑もあり、雪もまだ残っております。

一時間経って着いた山頂には、十三番目の山頂の標識が置かれていました。一本の木が標識が置かれていました。

私以外の人影も無く、ただ無数のトンボが飛び交っているだけでした。

「私の百名山」達成の最後に、この静かな山を選んで本当に良かったと思っています。きっと今でも静かなたずまいを見せていることでしょう。

私はこれからも、挑戦と成就の喜びを求めて、これまでの習字やスキーの技術をますます高め、季節と共に変わる山の表情を求めて、登り続けて行きたいと願っています。

えくてびあんの輪

人があて、街があります。あなたがあて、立川があります。そこにちょっとだけ、えくてびあん/リストのお店にはいつでも えくてびあん/

ルミネ立川店 1F受付	27-1411
オリオン書房 ルミネ立川店	27-2311
ビューティーナカ ルミネ立川店	27-6917
東京赤十字血液センター 立川支店	27-1140
朝日カルチャーセンター 立川	27-6511
ロッテリア 立川ルミネ店	24-7433
住友銀行 立川支店	22-6171
三菱銀行 立川支店	24-4121
ケンタッキーフライドチキン 立川店	28-2636
さくら銀行 立川支店	22-2151
フロム中武 1F受付	24-7111
ホワイトハウス フロム中武	25-8558
ばさーじゅー フロム中武	22-1941
三上製菓店	22-3259
多摩中央ミサワホーム	27-3388
café パーゼル	23-3746
パティスリーパーゼル	23-3746
立川リージェントホテル	22-1133
喫茶アバン	27-4479
トボス立川店	18-18
オリオン書房 第一パート店	22-3311
印草の宝 山堂	25-0111
アルピオン	24-28
お菓子の家 エミリーブローグ	24-28
アンキョーエミリーブローグ	24-30
クリームト	24-30
第一勧業銀行 立川支店	24-30
シェ・タスケ	25-14

自然食 ばれあな	24-4560
多摩画材	22-6031
新藤青果店	22-6443
丸助青果店	22-3542
スーパーやなぎや	22-4322
肉の専門店 伊勢屋	24-2734
洋菓子マリアン	24-3912
山梨中央銀行 立川支店	26-1571
TIP-TOP CAFE RESTAURANT	25-2030
横町屋菓子店	22-2609
フレンド書房	27-1555
むぎばたけ	26-1210
池田屋商店	22-3731
寿屋酒店	22-3625
三田花店	24-4187
TAPAS	29-0733
Coffee Shop 遊香	1-4-24
ステーキのりぷれ	1-8-3
和菓子処 ゆうき	1-8-5
うちのやブルマン	11-18-17
美容室 アリス	1-15-21
セガミ薬局	2-7-8
マルミヤスポーツ	2-7-8
そば高尾亭	5-31
立川商店	2-30
泰明堂	2-31-1
おそのい時計店	2-32-2
和風レストラン 鳥屋	2-27-9

蕎麦本陣

羽衣町3-11-16 ☎29-3983 11:30~20:00(15:00~17:00は準備中) / 日曜定休

苦節十年、修業をおえて独立した店主が求めるものは、まずもって、本格「せいろ」から

近頃、そばに蕎麦を傾けるお客が多くなった。その声に心ざされるだけの実力を、そば店もつけていなければならない時代になって来たわけだ。

「蕎麦本陣」が志をもって開店したのは昨年5月。はやくも評判をとっているのは、やはり「実力」であろう。店主の小川信昭さんは十年に余る修業時代を経て、晴れて独立にごぞつた。ちなみに、小川さんは立川育ち(三中卒業)であるという。

開口一番「せいろを召し上げてみてください」とは、やはり味、香りと蕎麦そのものに自信があるのであろう。(650円)。

さらに、おすすめは「おろしそば」(写真・900円)。大根おろしに、そばつゆ、ねぎと鰹節を加えて、そばをかき混ぜる。おろしに使う大根は、今日ではあまり見掛けなくなったおろし大根(からみ大根)を長野や秋田から送り寄せているという。小川さん、自信の一品である。

近いうちに自家製粉にして、そばの香りをもっと楽しんでいただきたい。と開店2年目にしてこの意気込み。

また、そばに合う辛口の地酒も数種類おいてあり(一合600円から) それぞれに楽しむことができる。

真味百撰②

月刊 えくてびあん 第154号

平成九年五月一日発行

発行所 えくてびあん編集工房

東京都立川市曙町2-17-5

電話 04-25-280082

FAX 04-25-280065

編集 立井秀介

印刷所 朝大出版社

東風

日本百名山と聞けば、そう大したことではないように思える。だが、百座を踏破するのは、なまなかの決心では完成しないだろう。第一、百名山だけ登って、あの山は見向きもしないというわけにはゆかない。山好きの心理とはそういうものである。3倍から5倍の登頂をたしめているのではないだろうか。今、エッセイを寄稿して頂いた小安 崇さんから百名山の達成を聞いて、その持久力に脱帽したが、「本家」である深田久彌氏の本が一冊、工房の本棚から見つかった。「九上山房夜話」(朝日新聞社刊)がそれなのだが、内容を散見すると、山岳と文学を結びつける粘り強さには今更ながら驚かされる。特に、ヒマラヤに関する研究では当時、世界屈指ではなかつたろうか。今日でも久彌氏の「日本百名山」は今も久彌氏の名著のほまれ高い一冊だが、発売まもなくの頃、文学賞をとっているはずである。それが引き金になった、氏のところへ「今度世界百名山を書いてみてほしい」という誘い出版社からうけたそうである。久彌氏は答える。「とんでもない。世界の山々をそう簡単に見られては困る」と、さりげなく断わっている。「足」が書かせたのであるという証拠である。◆ひとつの「世界」をもつということは素晴らしい。眼前に小安 崇さんのような立川人おられると、こころ踊る◆えくてびあん どちらをみても 山笑ふ

真如苑

午後2時~4時

◆御本陣、真如宝物館をはじめとして、映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

◆お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」未誌を手渡してくれた人へ

立川市1-2-13 Tel.27-0111(代)

真如苑だより

またあらしい服に身を包んで歩く新人たちと、大空を泳ぐ鯉のぼりの姿が重なり、5月は「希望」という言葉が似合います。爽やかな午後のお時を、どうぞ真如苑で。

日時 5月19日(日)

生まれ変わりました。

西洋厨房 グランディール

JR立川駅南口諏訪通り ☎22-0729

おいらん

西洋厨房 Grandire グランディール

生まれ変わりました。

JR立川駅南口諏訪通り ☎22-0729



【フタモンアシナガバチ】

ハチ目スズメバチ科

アシナガバチやスズメバチは家族生活をする高度に進化した昆虫です。春四月、冬眠から目ざめた雌バチ（母バチ）は、単独で巣造りをし、幼虫を育てます。エサはアゲハチョウやガの幼虫を、大アゴで噛みくだき、肉だんごにして巣に持ち帰り、与えます。

やがて生まれて来た働きバチの協力で、巣房を殖やし、個体数も増加して、盛夏の頃は、数百匹のハチの大家族になります。夏の終り頃母バチが死にます。秋には、次代の母バチと雄バチが生まれ、交尾をし、授精した母バチは、集団で朽木の洞穴内などにもぐり込んで春の訪れまで眠ります。残された雄バチや、働きバチも秋の終り頃までに死に、巣は空になって、二度と使われません。三〇年前には、立川市内にも空地が多く、何種かのアシナガバチがすんでいましたが、今では珍しくなりました。